平成21年1月20日発行
第164号
発行/高円寺地域集会施設運営協議会
〒166-0011　杉並区梅里1-22-32
事務局　☎3317-6614

セシオン杉並・和田区民集会所・高円寺北区民集会所

セシオン ふれあい

高円寺地域区民センター報

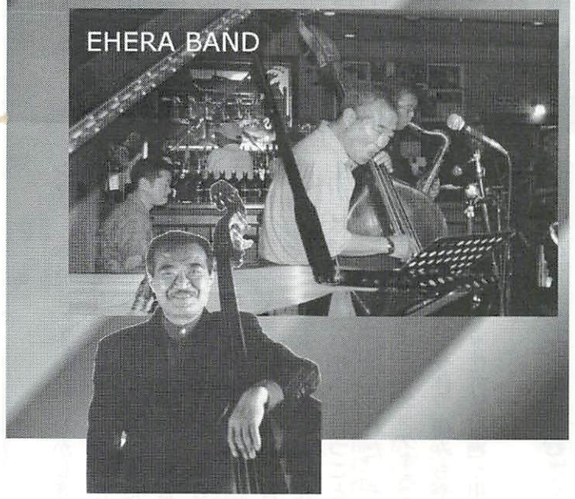
http://koenjiunkyo.web.infoseek.co.jp

ふれあい音楽会 ジャズ&ライブinセシオン2009

主な演奏曲目（予定）
A列車で行こう,マイウエイ,イパネマの娘 etc

3月14日(土)
13:30～15:00

会　場　セシオン杉並1F　談話コーナー
出　演　元キューバンボーイズ　エヘラー俊一と
　　ペトロ&カプリシャスメンバーの競演
定　員　100名
参加費　無料　◎当日直接会場へお越しください



新年のご挨拶

高円寺地域集会施設運営協議会
会長　大久保　貢祐

明けましておめでとうございます。

常日頃より地域の皆様を始め、行政並びに地域諸団体の格別のご支援、ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

昨年10月高円寺運協委員の改選に当たり秋澤前会長の後任として不肖大久保が選任され、新メンバーを加えた三十二名でスタート致しました。歴代会長の抜群の指導の下発展して参りましたセシオン杉並の更なる発展を目指し全委員「ボランティア精神」で総力を結集し皆様のコミュニティ広場として喜んで頂けるよう頑張って参る所存でございます。

今年十四年目を迎えた和田区民集会所では、「わだまつり」「あわてんぼうのクリスマス会」等、和田地区の皆様と一つになって障害者の方々と共におまつりを楽しみます。

また高円寺区民集会所で「きた!きた!高円寺まつり」を昨年に続いて企画いたしました。その他様々な講座等も開催してまいります。

私達高円寺運協はそうした事業を通じてセシオン杉並を中心にした高円寺地域全体で活動の輪を広めたいと願っている次第です。

何卒本年も引き続き皆様ご支援、ご愛顧をお願い申し上げます。

きた!きた!高円寺まつり 作品展示 出演グループ募集!!

開催日時
平成21年3月7日(土)
午前10時～午後3時

場　所
高円寺北区民集会所
杉並区高円寺北3-25-9

募集内容
・パネル（360cm×90cm）5組
・机（180cm×135cm）4組
・出演グループ
午前2組／午後2組

申込みは…
①グループ名、代表者名、連絡先
（※日中連絡できる電話番号）
②展示作品・演目内容
③展示場所：パネル・机
＊いずれか一つを明記
④締切　平成21年2月9日(月)必着
⑤往復はがきにてご応募下さい
＊応募多数の場合は抽選となります。

応募問合せ先
〒166-0011
杉並区梅里1-22-32
高円寺地域集会施設運営協議会
きた!きた!高円寺まつり宛
TEL 03(3317)6614

◎今年のセシオン杉並まつりは6月6日(土)・7日(日)です。募集要領は区報3月11日号とふれあい165号に記載します。

回覧

文化部講演会

『地球の未来を救え!!』

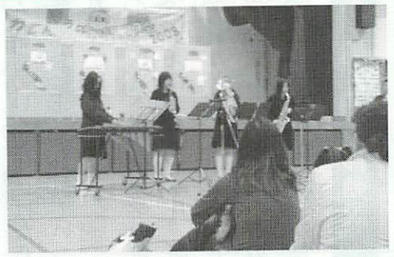
講師　放送大学教授
東京大学名誉教授
鈴木基之（すずき もとゆき）氏

於:セシオン杉並
3階　第8・9・10集会室
平成20年11月22日(土)

好評のうちに講演会が終了しましたが、詳細は次165号に掲載いたします。

あわてんぼうのクリスマス会 2008

於：和田区民集会所・和田小学校体育館
平成20年12月6日(土)



師走の暖かな午後、和田小学校体育館に195名のちびっ子達が集まり、サンタと共に音楽・マジックショーなどのプログラムを楽しみました。多数のご参加ありがとうございました。

又2009でも元気に会いましょう！

ロッカー及びレターケースの申込みについて

現在お使いいただいているロッカー及びレターケースは、すべて**平成21年3月31日をもって使用期限切れ**となります。

・対　象　高円寺地域区民センターを拠点として活動している団体
・募集個数　ロッカー　144個
　レターケース　168個
・申込み方法　往復ハガキに「ロッカー希望」または「レターケース希望」と明記し、団体登録名・さざんかねっと団体登録番号（8ケタ）・申込者名・住所・電話番号を記入し、返信用ハガキに郵便番号・住所・氏名をお書き下さい。
※両方を申し込む場合は往復ハガキ2枚を使用し、それぞれに記入して下さい。
・申込み先
〒166-0011
杉並区梅里1-22-32
高円寺地域集会施設運営協議会
電話03-3317-6614
・締切日　平成21年3月5日（木）必着
・使用期間　平成21年4月1日～平成23年3月31日

＊お申込多数の場合は抽選となります。
＊現在ご利用のロッカー及びレターケースの収納物は平成21年3月31日までにお引き取り下さい。
なお、引き取り期日後の収容物については、当方では責任を負いかねますのでご了承願います。

印刷／（株）佐野

体育部講演会から

「バレーボールから得た人生」

バレーボール金メダリスト
白井　貴子　氏

モントリオール金メダリスト
白井貴子氏「金メダルへの道 目標に向って！」

私は、子供の頃から背が高く、中学校の時には、身長が158㎝であったため、よく〝でかい、でかい〟と言われました。東京オリンピックでバレーボールが公式競技になったこともあり、バレーのTV番組などを見て憧れました。中学校に入ったとき、個人競技の方が性格的に合うと思ってテニス部に入ったが、ある時先生から「テニスに背はいらない」といわれ、バレー部に誘われました。

しかしバレー部でも背が高いだけでは駄目で、不得意なジャンプなど身体を鍛える練習がきつかった。練習が嫌になることもあったが、仲間の練習ぶりを見て自分を励ました。試合に勝つと欲が出て、暗くなるまで皆と練習をしました。

「達成目標から現在への計画を立てる」

中学校の卒業の時に自分の夢を語る機会があり、〝バレーでオリンピックに出て金メダルを取る〟と話した。夢の実現のために、「20歳までに目標を達成する」、そのために「19歳で全日本チームに入る」という目標を立て、目標達成のために先ず、全寮制のバレーの強い高校に入ることを目指しました。

顧問の先生方の尽力で、バレーの強い地元の高校に入学できました。床やボール磨きが新入部員の役割でした。辛いメニューや練習だけの日々に、こんなことで夢が叶えられるか疑問を感じたが、「悩みを乗り越えた人のみが先輩になった、時間も苦しさも皆に平等にある」と考えたら気が楽になった。この時の床ふき等は良い身体作りになったと思っています。

「アドバイスで危機を乗り切る」

その後会社に入りバレー部で頑張っていたが、練習の成果もはかばかしくなかった時に、バレーを止める理由を探したり、合宿や厳しい練習などのストレスで自立神経失調症になったが、この時には仲間の一言に救われました。オリンピック強化選手になった時にも、ストレスからジンマシンを発症しました。しかしきつい練習も「4年後のエースに育てろ」というためであることを知り、また練習に気が乗らなかったときに監督から「誰のために練習をしているのか」と一喝され、目が覚めました。

ミュンヘンオリンピックの前に背中を痛めたことがあった。この時先生から〝逆足でスパイクを打つことから起こる〟ことを知らされた。そして「逆足を意識してアタックする」というアドバイスを受け、痛みもやわらぎオリンピックに行くことが出来ました。

「〝今がチャンス〟に挑む」

ミュンヘンオリンピックの決勝戦の前日にテロ事件が発生し、決勝戦が一日延期された。この一日の休養の結果、試合当日は非常に調子が良くなった。ソ連との決勝戦は、第3セットまでで1-2で負けていた。第4セット、試合を見ていて自分が活躍できると思った。セットは、すでに4-11でリードされていた。出られるチャンスだと思い、思い切って申し出た。監督からは一本だけ打てと言われて出た。一本のスパイクが次々に決まり、第4セットを取った。そして第5セットに出ることが決まった途端に、緊張してしまった。仲間も同じであった。結果は銀メダルであったが、バレーの選手として大きく認められた試合でした。

「人生を生きる言葉を多く持つこと」

その後山田監督の元で、バレーを続け1974年世界選手権に優勝、1976年モントリオールオリンピックで金メダル、1977年ワールドカップで優勝しました。

練習の合間の叱咤激励（しったげきれい）の言葉の中で「選手をやめた後の、50年間をどう生きるかを考えるように」といわれた。今一番この言葉を噛みしめている。「人間の生き方に金、銀、銅がある」といわれる。金の生き方は、人を育てることであるという。今まで人から教わった分、今度は人に教えて行きたい。将来、若い人が「白井さんの言葉で育った」と言われるように、「継続は力」を信じて社会に恩を還元してゆきたいと思っています。

[白井貴子氏：NPO法人日本オリンピアンズ協会TOL会（幹事）、NPO法人モントリオール会代表幹事]

あんなこと、こんなこと　～中学校の理科教室から～ ⑤

大陸は移動する〈2〉

小川　公夫

今から百年近く前、「大陸は移動する」と主張した人がいました。ドイツの気象学者アルフレッド・ウェゲナーです。今日は、前回のおさらいの後、大陸移動説が新しい理論に変貌したことをお話ししましょう。

猿は海を渡らない

ウェゲナーは、様々な証拠を提示しましたが、なかでも有名なのが、大陸をまたがって生息する生物の存在です。例えば、レムリアという猿は海洋でへだてられたインドやマダガスカル島などに生息しています。「一つだった超大陸が、いくつかに分裂して移動した」と考えるだけで、もともと同じ種の猿が海洋を隔てて住むという謎を、ものの見事に説明できたのです。

何が大陸を動かすのか

しかしウェゲナーの斬新な発想に対する批判の一つが、「大陸を動かすエネルギーは何か」という疑問でした。大陸移動説を支持する科学者たちは、様々に考察しましたが、物理学的に十分納得のいく説明にはならず、大陸移動説は忘れ去られていったのです。

ウェゲナーは、本業の気象学の研究のため、千九百三十年十一月、同僚に見送られながらグリーンランド探検に出かけましたが、それが彼の最後の姿になりました。

よみがえった大陸移動説

第二次世界大戦が終わると、欧米を中心に海洋調査が盛んに行われ、海洋底の様子が詳しく分かってきました。

○南米のアンデス山脈のように、長さ数千キロにも連なる海嶺（海底の大山脈）が走っている。

○海嶺からずっと離れたところに、海溝とよばれる溝がある。

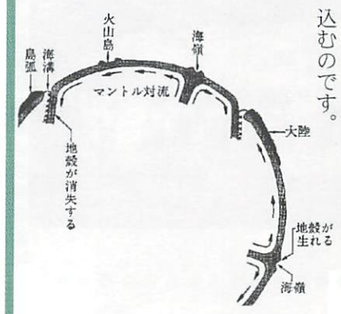
○海嶺には、海底火山や熱水の吹出し口があり、地球内部から多量に熱が放出されているが、海溝では放熱が少ない。

○海嶺に近い地層は年代が新しく、海溝にいくほど古い。

地殻熱流量計

一方地震波の研究によって、地球は地表面から順に、地殻、マントル、核の三層構造をしていることが知られていました。そこで、マントルが地球内部で対流していて、わき出てくるところが海嶺、マントルが沈み込むところが海溝であると考えられるようになりました。

この説を「**マントル対流説**」といいます（左図）。海嶺で新たに海洋底がつくられ、長い時間をかけて移動し、やがて海溝で地球内部に沈み込むのです。



プレートの移動

プレートテクトニクスへ

マントル対流説では、地殻と上部のマントルが一枚の板のように移動していると考えるようになりました。この板をプレートといい、移動のメカニズムを「プレートテクトニクス」と呼んでいます。これにより、ウェゲナーの大陸移動説は、プレートテクトニクスという地球内部の熱放出のメカニズムの解明によってよみがえったのです。

終わりに

ウェゲナーの斬新な発想の原点は、大西洋をはさんで横たわるアフリカ大陸と南米大陸の海岸線が似ていることだったそうです。私たちは、ウェゲナーの洞察力と実行力に改めて感服するのです。

〔引用・参考文献〕
・「地球の科学」NHKブックス
・「生きている地球」日本経済新聞社

小川 公夫 氏：杉並区立高円寺中学校 主幹

次号165号は
3月20日
発行予定です